

実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
宇部市	万倉地区(東郷、西郷、沼田ヶ原、矢矯、神元、国近、宗方、小河内、沖田・栄町、伏付、土井・伊佐地、大柏、城南、黒五郎、ニツ道祖)	令和4年3月30日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	125.65ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	87.59ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	52.85ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	36.89ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.33ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	11.5ha

2 対象地区の課題

農業者の高齢化・資材等の高騰・米価の下落により、離農または規模縮小を意識されている農業者が多い(アンケート結果によると約半数の方が離農または規模縮小の意向あり)。今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、70才以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が25.39ha多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。

また、農地のマッチングが上手くいかないという声が出し手側、受け手側の双方からあがっており、改善することにより集約化が効率的に行われると考える。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

集落内での農地利用について、中心経営体である担い手や法人が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れについて、地元への理解を周知しながら促進することにより対応していく。

農地のマッチングについて、素早く効率的に情報共有が行われる仕組みを検討し、農地の集約化を進めていく。